

# 横浜市環境管理計画

## 2021年度の推進状況



## 横浜市環境管理計画について

- ・ 条例に基づく本市の環境分野の総合計画
- ・ 3つの基本政策、7つの基本施策を、市の総合計画である横浜市中期4か年計画、分野別の個別計画と連動させ、総合的に取組を推進

### <環境管理計画の体系>

総合的な視点による基本政策  
Policies from Cross-  
Sectoral Perspectives

多様化・複雑化する環境問題に対応するため、環境の視点だけでなく、様々な分野と連携して総合的・横断的に取り組みます



### 環境側面からの基本施策 Policies from an Environmental Aspect

個々の環境課題に着実に対応する7つの基本施策を掲げています。環境行政の基軸である「地球温暖化対策」と「生物多様性」は重点施策として取り組みます。



## 横浜市環境管理計画について

---

- ・ 計画の推進状況は、環境創造審議会にご報告し、ご意見を計画推進に活かすとともに、年次報告書として、毎年度とりまとめて公表

### <年次報告書について>

#### 位置付け

条例に基づき、横浜の環境の状況、環境管理計画に基づき実施された施策の状況等についてとりまとめ、公表

#### 編集方針

市民・事業者に、分かりやすく環境の取り組みを伝える  
市の施策立案の基礎資料とする

【本 編】横浜の環境の取組、環境の状況をデータを多用し総合的に記述

【概要版】より平易に、手にとってもらえるデザイン・内容

【資料編】計画に関係する経年データをオープンデータとして公開

#### 配布方法

【本 編】市ウェブページ、市民情報室、各市立図書館、各区広報相談係で閲覧

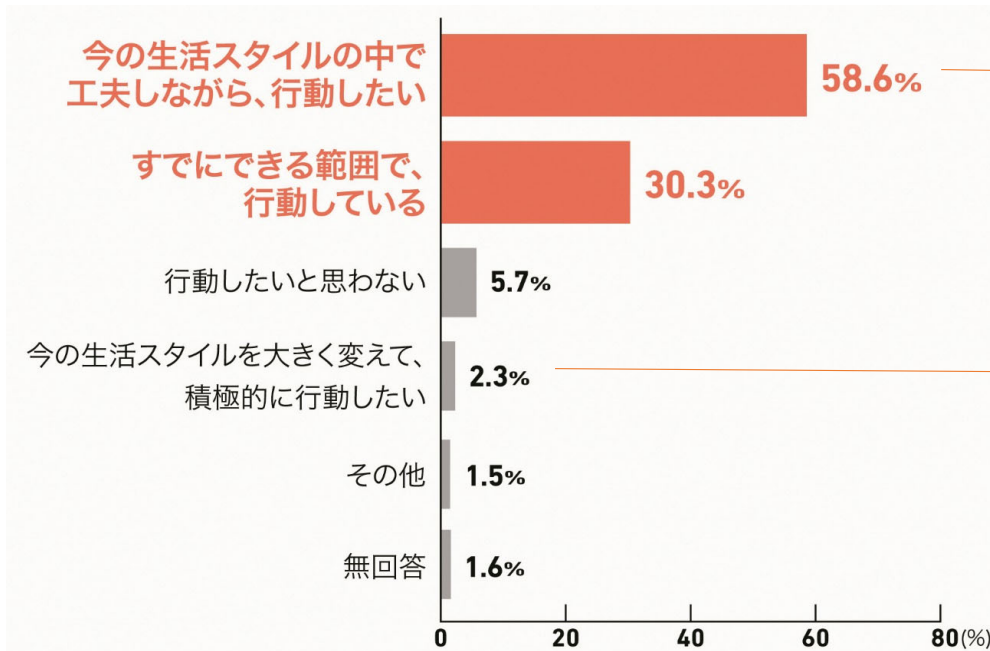
【概要版】本編と同じ場所で配布、視察・研修などで配布

【資料編】市ウェブページでの閲覧・提供

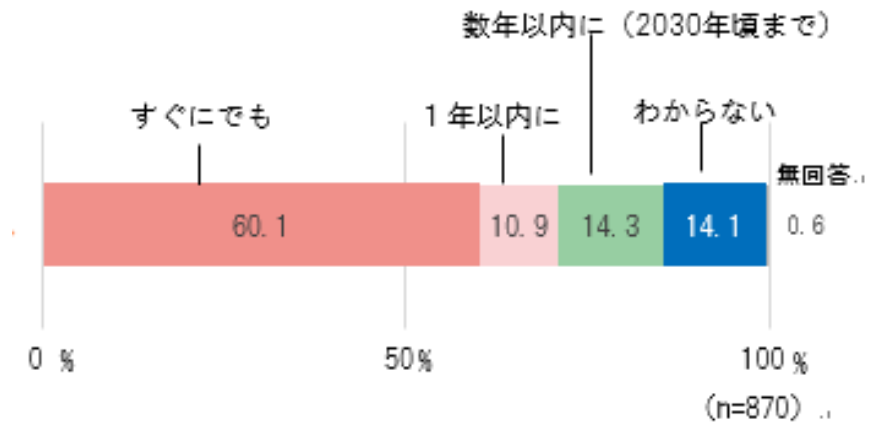
## 計画を取り巻く状況～市民意識調査から～

- 「地球温暖化分野」では世界・国の動きが加速。  
市民の脱炭素化に向けた意識も高まっている。

Q 脱炭素化に向けてどのように  
行動したいと考えますか。(1つ選択)



※これから行動したいと考えている人へ質問  
Q その行動はいつ頃からしたいと考えますか。(1つ選択)



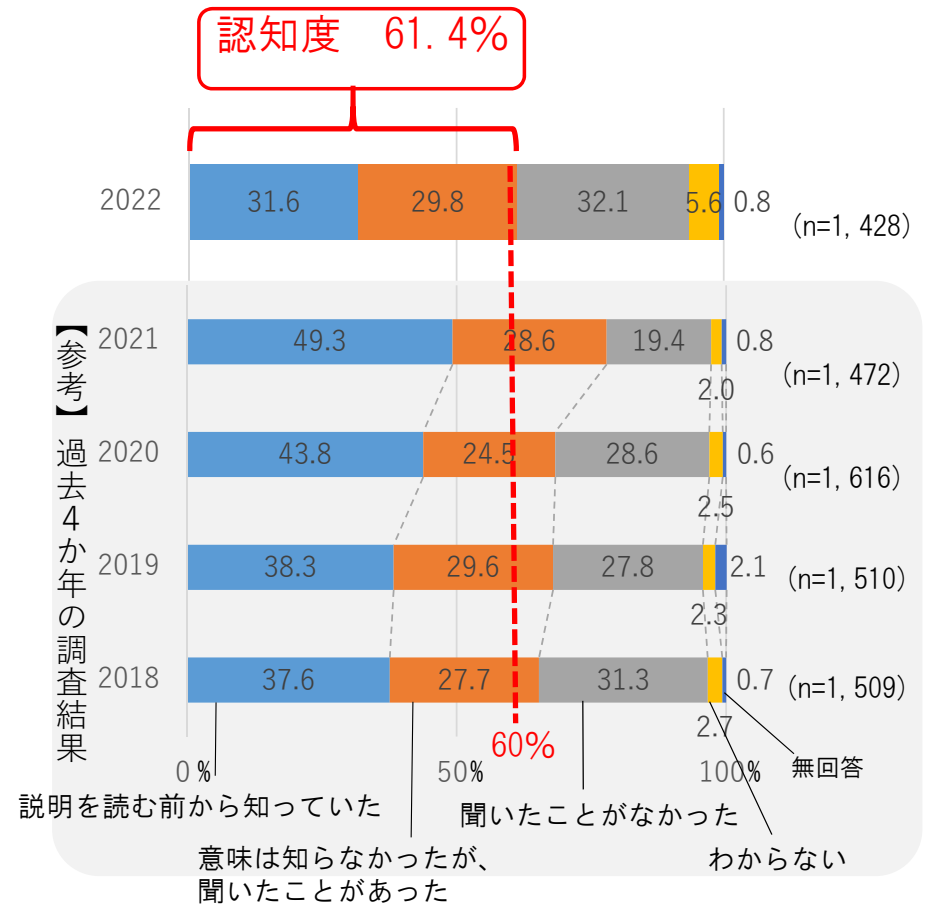
出典：2022年度 環境に関する市民意識調査結果  
(調査時期：2022年7月)

## 計画を取り巻く状況～市民意識調査から～

### < 生物多様性の認知度 >

- ・「生物多様性」という言葉の認知度※は、61.4%であった。
- ・直近5か年でみると60%を超えた値で推移している。

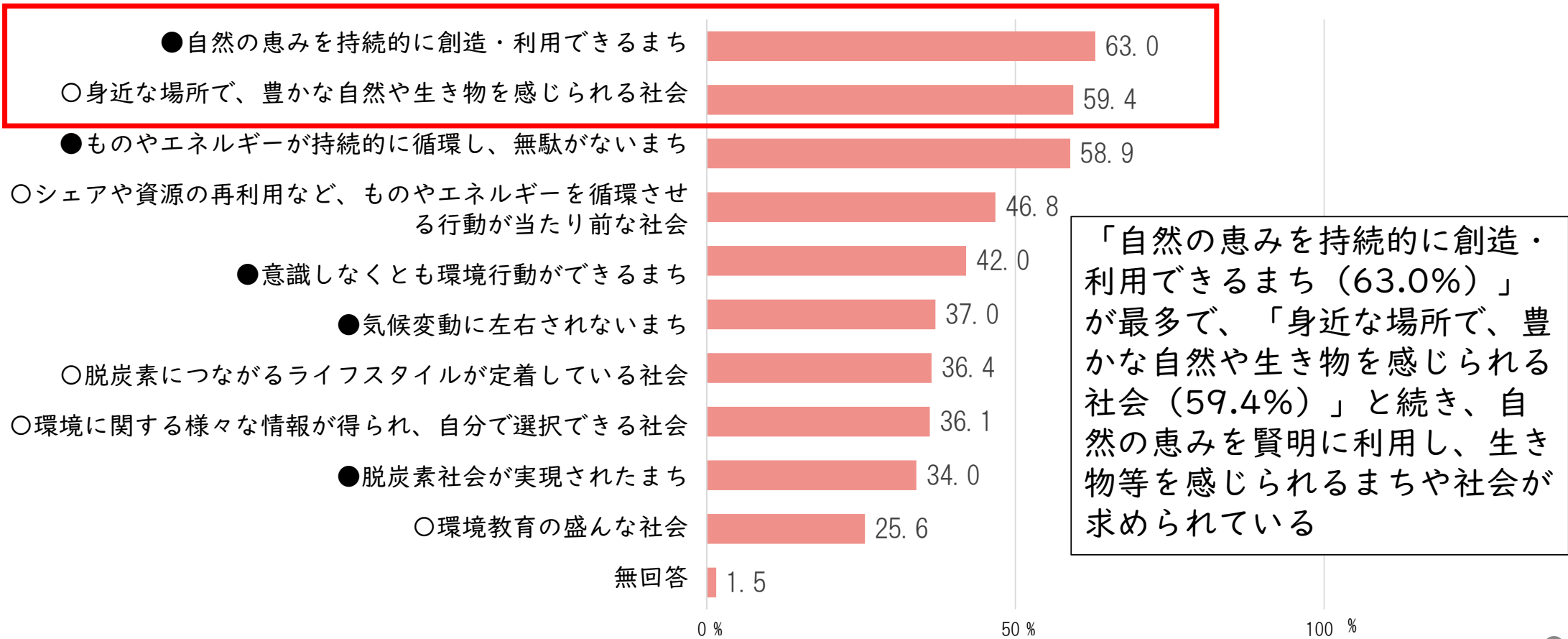
※「説明を読む前から知っていた」・「意味は知らなかったが、聞いたことがあった」人の割合の合計



出典：2022年度 環境に関する市民意識調査結果

## 計画を取り巻く状況～市民意識調査から～

Q あなたは横浜が将来どのような環境のまちになるとよいと考えますか？（複数選択可）  
（選択肢のうち、●は「まちの姿として」、○は「私たちの行動・考え方として」）



出典：2022年度 環境に関する市民意識調査結果（調査時期：2022年7月）

# 各政策・施策の推進状況

- 愛護会などの市民団体・学校・事業者による、良好な環境の保全活動を支援
- 地域で積極的に環境保全の取組を行う事業者・団体を表彰
- 多くの市民の環境にやさしいライフスタイルの実践につなげるための広報や、SNSによる情報発信を推進
- 18区役所では、地域特性を踏まえた取組を展開



森づくり体験会の様子  
(上川井市民の森)



横浜環境活動賞受賞団体による  
ワークショップの様子



ウェブ会議ツールを利用したスポーツ  
ごみ拾いイベント (瀬谷区)



- 再生可能エネルギーの普及、電気自動車等の普及といった地球温暖化対策の推進
- 地域資源や景観を活かし横浜の魅力を発信、賑わいを創出
- 新興国等の環境課題解決に向けた国際技術協力・海外インフラビジネス展開支援
- 地産地消ビジネスに取り組む事業者を支援



EV充電器の公道設置に関する  
実証実験（青葉区）



ガーデンネックレス横浜  
主要イベントの横浜ローズウィーク

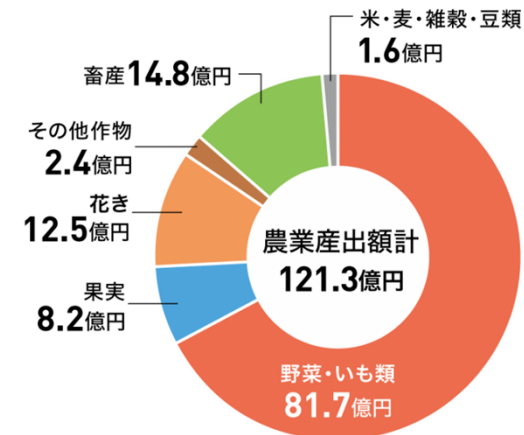
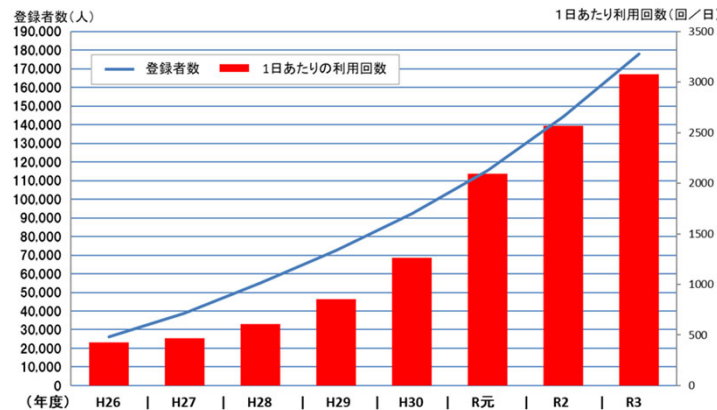


図 横浜市の農業産出額

- 都心臨海部では公共交通の利便性向上等、エネルギー・交通面から環境負荷低減
- 郊外部での持続可能な魅力あるまちづくり、土地利用転換に対応した公園整備
- 横浜環状道路など交通ネットワーク整備、自転車利用環境の整備の推進
- 気候変動やヒートアイランド現象による都市の「暑さ」の適応策の推進



国際園芸博覧会 会場イメージ  
(2027年開催予定)



コミュニティサイクルの登録者数と  
1日あたりの利用者数



都市環境気候図を活用した暑さをしのぐ環境づくりの手引き

- 温室効果ガス排出量、エネルギー消費量ともに2020年度の目標値達成
- 東北13市町村との連携、地産地消電気メニューの開始など、再生可能エネルギー活用が進展
- FCV導入補助を推進

## 環境目標の達成状況

( )内は前年度値

2020年度までの目標値

温室効果ガス排出量	1,648 (1,779) 万t-CO <sub>2</sub>	2013年度比 <b>24%減</b>	<u>2013年度比で22%減</u>
エネルギー消費量	204 (221) PJ	2013年度比 <b>20%減</b>	<u>2013年度比で10%減</u>

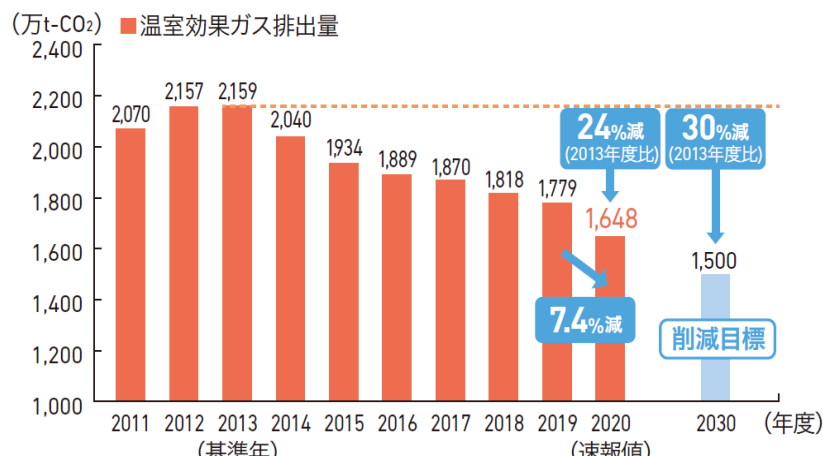


図 横浜市域の温室効果ガス排出量の状況と削減目標



横浜市風力発電所  
ハマウィング



FCV普及啓発イベント

- 多様な動植物などの生き物の生息・生育環境の保全を推進
- 市民が身近な自然や生き物に触れ合い、楽しみ、学ぶ機会を創出
- 生物多様性に配慮した行動をとる市民や企業等を増やすための表彰・情報発信

### 環境目標の達成状況

水田保全面積

動物園等における環境教育・学習の実施

生物多様性保全に取り組む市民団体や企業への表彰

( )内は前年度値

112.2 (113.3) ha

355 (120 ※) 件

13 (15) 団体

※コロナ禍における行動制限により開催件数が大きく減少



良好に保全された水田（戸塚区東俣野町）



ZOO to Wildセミナー（金沢動物園）



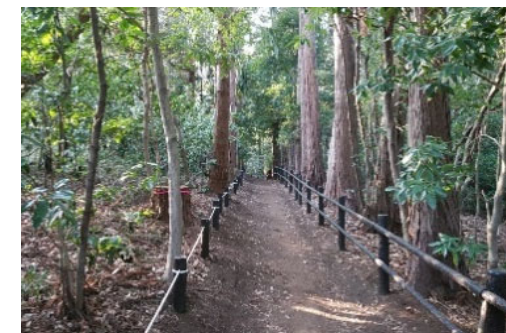
Twitterを活用した身近な生き物情報発信

## 基本施策3 水とみどり

本編 p48

### 環境目標の達成状況

	( )内は前年度値
緑被率 (2019年度調査値)	27.8 %
緑地保全制度による新規指定	31.9 (28.9) ha
宅地内雨水貯留タンク設置助成	188 (199) 件
道路・宅地への雨水浸透ます設置 (下水道事業で設置したもの)	19,630 (19,342) 個※ (2021年度末時点) ※事業開始からの合計値



名瀬・上矢部市民の森  
(戸塚区)

## 基本施策4 都市農業

本編 p54

### 環境目標の達成状況

	( )内は前年度値
市民・企業等と連携した地産地消の推進	50 (45) 件
市内産農畜産物の購入機会の拡大	49 (41) 件
農業者団体※による維持管理面積 ※まとまりのある農地を維持する農業者団体	679.0 (643.9) ha (2021年度末時点)
様々な市民ニーズに合わせた農園面積	93.5 (88.9) ha (2021年度末時点)



恵みの里での農体験教室  
(緑区)

## 基本施策 5 資源循環

本編 p60

### 環境目標の達成状況

( )内は前年度値

ごみと資源の総量	117.8 (120.0) 万t	→ 2009年度比	7.6%減
ごみ処理に伴う 温室効果ガス排出量	22.7 (25.0) 万t-CO <sub>2</sub>	→ 2009年度比	19.5%減
産業廃棄物最終処分量	29 (17) 万t (2020年度)		

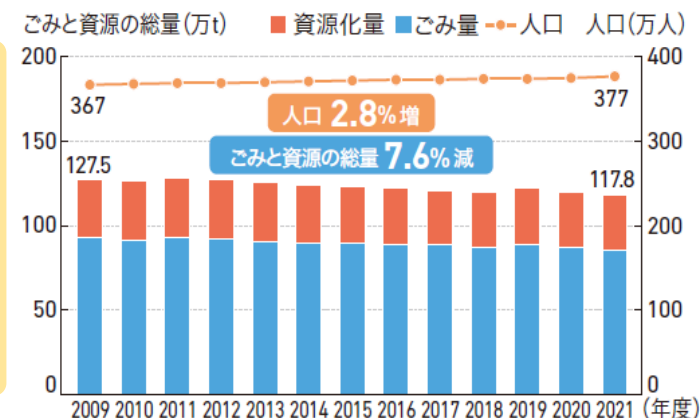


図 ごみと資源の総量及び人口の推移

## 基本施策 6 生活環境

本編 p66

### 環境目標の達成状況

○/○は達成地点数/調査地点数

大気	二酸化窒素	27/27*
	光化学オキシダント	0/19
水質 (河川)	BOD	19/21
	生物指標	35/38 (2018-2019年度調査)
	(海域)	COD 6/7 、 全窒素 4/7 、 全りん 3/7

※環境基準の下限値（1時間値の日平均値0.04ppm）で評価。上限値には全地点で達成

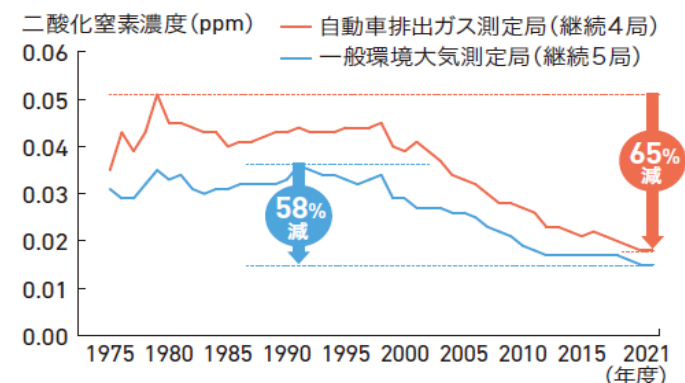


図 大気環境（二酸化窒素濃度）の経年変化

- 「環境に関心があり、行動している」市民の割合は8割超
- オンライン活用し、体験も重視した環境教育出前講座などの環境を学ぶ場の創出
- 教育委員会において、SDGs達成の担い手育成（ESD）を推進

## 環境目標の達成状況

環境に関心があり、行動している市民  
 環境教育出前講座参加者数  
 ESDに積極的に取り組む市立小中学校数

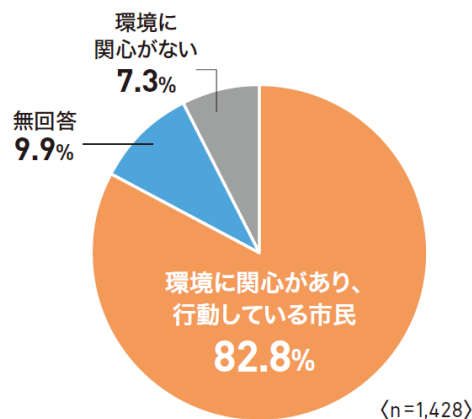
( )内は前年度値

82.8 (81.5) %

6,210 ( 3,776※ ) 人

424 (392) 校

※コロナ禍における行動制限により参加者が大きく減少



体験も重視した環境教育出前講座



小学校のSDGs委員会が取り組んだ「フードドライブ」の活動

図 環境に関心があり、行動している市民の割合  
 (出典) 2022年環境に関する市民意識調査

# 環境管理計画策定の進め方（案）

- 一 計画策定にあたって（策定の趣旨）
- 一 計画策定の方向性  
（新たな計画の枠組み・構成）
- 一 計画策定に向けた検討体制・スケジュール



## 計画策定にあたって

### 現行計画の状況

- ・ 2025年を目標年次とし2011年に策定、2015、2018年に、目標や枠組を継承しながら改定  
→地球温暖化対策と生物多様性保全を基軸とする環境（創造局）行政の基礎となっている

### 次期計画策定の必要性

- ・ 2025年より先を見据えた目標設定、施策展開が必要
- ・ SDGsを先取りした計画だったが、ここ数年で法や社会が先行する状況になりつつあり、例えば「環境と経済」「環境とまちづくり」では、他計画へ一歩踏み込んだ取組を働きかける根拠としては当たり前になってきている
- ・ 2030年までのSDGs、2050年までの脱炭素化や生物多様性保全の新たな国際目標や国の目標達成に向け、環境分野の目標・施策の連動性を高め、他分野と連携した、より踏み込んだ施策が求められている

### 次期計画の位置づけ

- ・ 条例に基づく環境分野の総合計画（マスタープラン）としての位置付けに見合う内容としていく
- ・ 引き続き、生物多様性基本法に基づく地域戦略、環境教育等促進法に基づく行動計画として位置付ける

## 計画策定の方向性 ① 計画の枠組み

### 計画づくりのコンセプト

- ・ 分かりやすい構成／体系
- ・ 行政はもとより、市民・企業の取組の指針となるような内容・文章表現・デザインをトータルで目指し、コミュニケーションツールとしても活用

☞ 計画構成・体系などわかりやすくするため全面的に見直す

### 計画の目標・方針のあり方

- ・ 未来洞察手法を用いて、「将来実現したい横浜の環境の姿」と「実現に向けて取り組むべき政策・施策」を検討

「未来洞察」手法により  
未来シナリオ年表を作成

横浜の将来の環境の姿を検討

バックキャストで政策・施策を  
検討

- ・ 政策検討の成果を活かし、
  - ー 将来の環境変化も織り込んで2040～2050年頃に実現する、各分野を統合した将来像・目標を示す
  - ー バックキャストで検討した施策と、既存施策を接続する政策・方針（施策の方向性）を示す

☞ 次期計画に付け加える視点について審議会でもご意見をいただく予定

# 計画策定の方向性 ② 計画の構成・体系～分かりやすい計画にするために～

## ● 現行計画から、よりわかりやすくするために

- ・ 取組姿勢、基本政策、基本施策を整理し、項目をより見やすく
- ・ ボリュームを減らし、重要な部分をよりわかりやすく
- ・ 市民目線で伝わる表現に

基本施策  
・ 環境目標

### 横浜市 環境管理計画 概要版

2018年11月 改定

#### 環境管理計画とは 本編 P.2

- 横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例に基づき策定している環境分野の総合計画
- 環境分野の中長期的な目標や方針を明示
- 計画期間は2025年まで
- 生物多様性基本法に基づく「生物多様性地域戦略<sup>※1</sup>」及び取組教育等促進法<sup>※2</sup>に基づく「環境教育等行動計画」としても位置付け
- ※1 名称は生物多様性増進行動計画（ヨコハマプラン）
- ※2 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律の略

#### 計画改定時の社会の状況 本編 P.4

- 少子高齢化、都市インフラの老朽化が進行
- 気候変動やそれに伴う自然災害、生物多様性の喪失など環境問題が多様化・複雑化
- 情報通信技術（ICT）が急激に進展
- 環境教育の重要性の高まり
- 世界全体の平均気温の上昇抑制を目的とした「パリ協定」の発効
- 持続可能な開発目標（SDGs）を掲げる「アジェンダ2030」の採択
- 都市間競争の加速の中で、環境への取組やその発信が不可欠

#### 横浜が目指す将来の環境の姿 本編 P.10

##### 脱炭素化に向けて温室効果ガスの排出が大きく削減しているまち

##### 水とみどり豊かな自然環境があり生物多様性の恵みを受けられるまち

#### 環境行政の基本的な考え方 本編 P.14

- 大量の資源やエネルギー消費に頼る現代社会のあり方を見つめ直し、自然が持つ恵みや脅威を受け入れ「自然と人の共生」を目指す
- 自然と人の共生に向け、地域社会とのつながりを大切にしつつ、環境行動を楽しみながら継続して実践する環境にやさしいライフスタイルの浸透を、横浜市が積極的に後押ししていく

### 取組姿勢

#### 政策的な取組の概要

##### 政策的な取組の進め方の取組姿勢 本編 P.18～27

- 総合的な環境政策の推進に向けた連携の強化**
  - 様々な関係機関との連携強化により大きな推進力へつなげる
  - 地球温暖化対策と生物多様性保全の両面による総合的な環境政策の推進
- 「行動する人」を増やす環境教育・学習の推進**
  - 自ら考え、理解し、主体的に行動する人を増やすため、あらゆる主体による、あらゆる場・機会を通じた環境教育・学習を推進
- 情報通信技術（ICT）の積極的な活用**
  - ICTを積極的に活用したインフラの維持管理、環境情報の「見える化」、情報を活用しやすくなる環境づくりなどを推進
- 防災・減災の視点を入れた環境施策の推進**
  - 気候変動がもたらすリスクの軽減、再生可能エネルギーの普及や、自然環境の持つ多面的な機能を活用する「グリーンインフラ」の概念を活用した取組等を推進
- 「選ばれる都市・観光」に向けて環境の魅力を開発**
  - 恵まれた水・緑などの自然環境、花や緑をきっかけとする機わらしい景観や魅力、これらで培ってきた技術・経験や、国内外に向けて広く発信

##### 総合的な視点による基本政策 本編 P.33～49

様々な分野と連携して横断的に取り組みます～

- 環境と人・地域社会**
  - 市民が、子どもの頃から自然の恵み、川、海や生き物とのふれあいを体験する機会を享受し、自然環境と地域の文化などとの関わりを大切にする、環境にやさしいライフスタイルが日常生活に浸透している環境を目指します。
  - 取組方針: ①人と環境とのふれあいを促す ②環境活動の促進とネットワークづくり ③「学び」の場づくり、新づくり
- 環境と経済**
  - 環境分野の技術開発等による市内経済の活性化、地域資源や環境技術・ノウハウを活用したシェアエコノミー、事業者との連携などによる経済ならではの都市農業が盛んな環境を目指します。
  - 取組方針: ①環境分野の技術・経済分野における環境分野の活性化を推進 ②地域資源を活かしたシェアエコノミーの活用 ③環境分野での産学官連携を促進しビジネスの海外展開 ④環境の特色ある都市観光の推進 ⑤スマート農業の推進
- 環境とまちづくり**
  - 地球温暖化対策や生物多様性保全と都市活動の両立が図られる環境づくりが実現し、災害や自然災害・公共交通安全などとしたリスクが形成され、災害にも強いまちを目指します。
  - 取組方針: ①地球温暖化に配慮したまちづくり ②人やモノが移動しやすくなるまちづくり ③防災・減災に配慮したまちづくり ④防災・減災の推進 ⑤環境分野における防災・減災対策の推進

基本政策  
・ 環境目標

### 環境側面からの基本施策 本編 P.53～100

～様々な環境課題に施策に対応します～

- 地球温暖化対策**
  - 環境目標: 気候変動に合わせた活動の推進、温室効果ガス削減の促進、自然災害の軽減、気候変動による自然環境・生物多様性の影響を軽減し、安全・安心で持続可能な都市を実現している。
  - 取組方針: ①市民と企業協働 ②スマートシティ ③環境と経済の両立 ④都市間競争と協働 ⑤環境にやさしいまち ⑥持続可能なまちづくり ⑦エネルギーと社会 ⑧防災の推進
- 生物多様性**
  - 環境目標: 生物多様性が豊かになり、日常生活の中で自然や生き物に触れ合っている。市民、事業者の主体的な取組が促される豊かな生物多様性」が横浜のイメージとして定着している。
  - 取組方針: ①自然と人の共生を推進し、実践するための普及啓発 ②地域性に合わせた保全・再生・創出 ③保全活動に市民が参加しやすくなる ④多様な生き物と共生するまちづくりと経済活動の両立
- 水とみどり**
  - 環境目標: 緑地や公園などの家と家の間の緑が保全され、市街地で新たな緑が創出されている。雨水浸透ます等の普及により良好な水循環が実現されている。
  - 取組方針: ①緑地の保全・活用促進 ②緑地の創出・育地の推進 ③水循環の活用 ④水質の改善
- 都市農業**
  - 環境目標: 農業と都市生活が共存し、市民が農業に関与している。多様な農業形態を生み出す都市農業が盛んに行われている。豊かな多面的機能が果たされている。
  - 取組方針: ①市民と協働した農業の推進 ②都市農業の振興 ③都市農業の普及促進 ④都市農業の振興 ⑤都市農業の振興
- 資源循環**
  - 環境目標: 資源物の削減、リサイクル、資源物の削減、3R行動の実践。定着により、ごみのごみで困らないまちが実現している。資源物の削減が促進されている。
  - 取組方針: ①資源物の削減 ②リサイクルの推進 ③資源物の削減 ④資源物の削減 ⑤資源物の削減 ⑥資源物の削減 ⑦資源物の削減 ⑧資源物の削減
- 生活環境**
  - 環境目標: 大気、水などの環境の保全と環境リスクの低減。暮らしにやさしい環境が整備され、市民生活の質が向上。あらゆる主体が生活環境に貢献する環境を実現している。
  - 取組方針: ①大気・水などの環境の保全 ②環境リスクの低減 ③暮らしにやさしい環境の整備 ④市民生活の質の向上 ⑤あらゆる主体が生活環境に貢献する環境の実現
- 環境教育・学習**
  - 環境目標: 自ら考え、持続可能な社会の実現につながる主体的な取組を実践する人が育っている。環境教育・学習が、あらゆる主体・あらゆる場や機会に展開し、浸透している。
  - 取組方針: ①環境教育の普及 ②市民と協働した取組の推進 ③環境教育の普及 ④環境教育の普及 ⑤環境教育の普及 ⑥環境教育の普及 ⑦環境教育の普及 ⑧環境教育の普及

#### 環境の評価と公表等 本編 P.102～107

- 環境目標の達成状況や取組状況、環境に関する市民意識調査を活用し、環境創造協議会の意見も伺いながら、横浜市の環境施策の取組状況を総合的にとりまとめ、年次報告書として公表します。
- 年次報告書の内容を各取組の実施主体にフィードバックすることで、様々な施策の総合的・横断的な推進につなげます。

目標像  
(将来の環境の姿)

行政の基本的な考え方

## 計画策定の方向性 ② 計画の構成・体系～分かりやすい計画にするために～

### ● 計画の骨組み（施策体系）

- ・ 環境政策検討の成果をベースに、シンプルな体系を検討

#### 【計画体系（現行計画）】

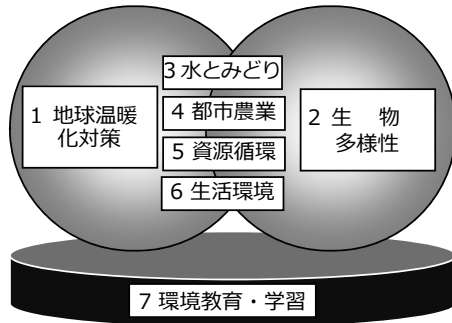
##### 第3章 環境政策のさらなる総合的な推進に向けて

###### ● 5つの取組姿勢

- 総合的な環境政策の推進に向けた連携の強化
- 情報通信技術（ICT）の積極的な活用
- 「選ばれる都市・横浜」に向けて環境の魅力を発信
- 「行動する人」を増やす環境教育・学習の推進
- 防災・減災の視点を入れた環境施策の推進

###### ● 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用

##### 第5章 環境側面からの基本施策



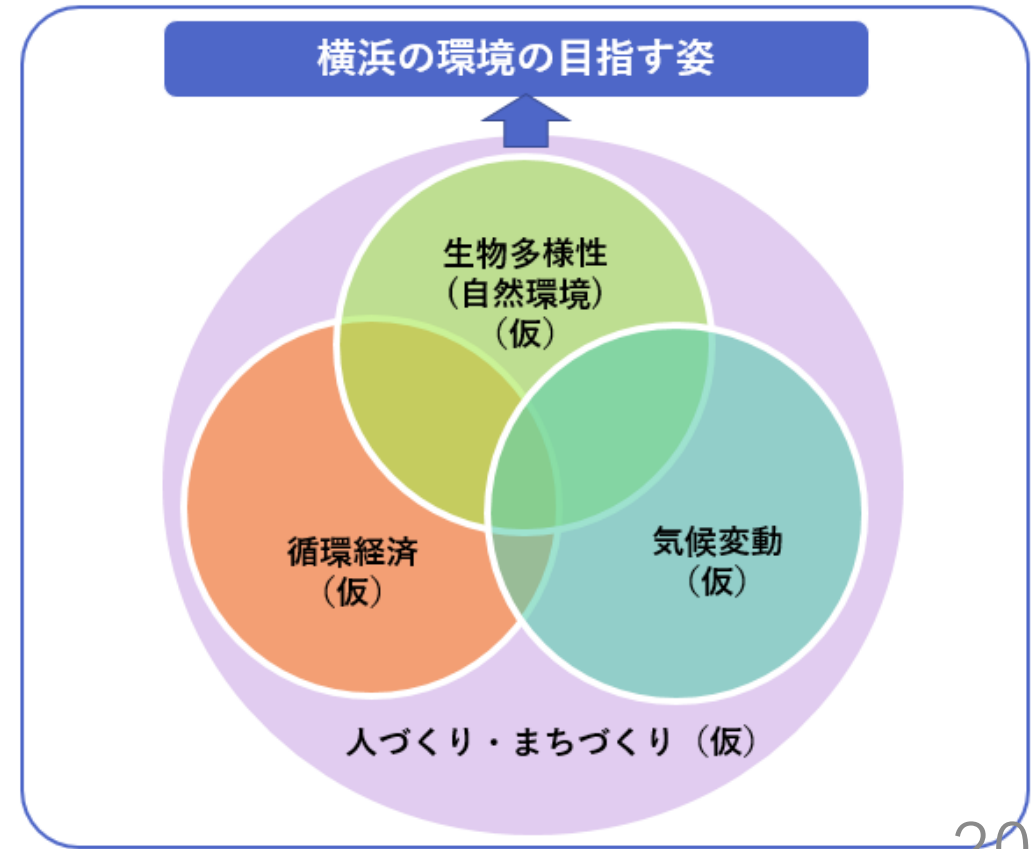
##### 第4章 総合的な視点による基本政策

1 環境と人・地域社会  
環境にやさしいライフスタイル  
を実践する人と環境とのきずな  
による地域の活力

2 環境と経済  
環境分野の取組による市内経済  
の活性化と地域のにぎわいづく  
り

3 環境とまちづくり  
環境と調和・共生した、強靱で  
魅力あるまちづくり

#### 【次期計画体系（イメージ）】



## 計画策定に向けた検討体制・スケジュール

### 有識者意見

環境創造審議会において次期計画策定に向けて加えるべき視点についてお諮りする

### 市民・企業 ニーズの把握

環境に関する意識調査の活用、パブコメ  
関係が深い団体へのヒアリング等も検討

年度	時期	取組内容
R4～R5	R4.11月	環境創造審議会へ計画の方向性を報告
	R5年以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境創造審議会へ「次期計画策定に向けて加えるべき視点」についてお諮りする予定</li> <li>・ 委員から意見を伺い整理</li> <li>・ 事務局として委員の論点・視点を受けた取組の方向性を検討し、素案作成</li> <li>・ 審議会へ素案の提出</li> <li>・ 市会報告</li> <li>・ 市民意見募集（市民団体へのヒアリング等）</li> </ul>